

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



令和3年度 森林・林業交流研究発表会の開催について

【技術普及課】

11月16日(火)～17日(水)の2日間、TKP ガーデンシティ大阪リバーサイドホテル(大阪市都島区)において「令和3年度 森林・林業交流研究発表会」を開催しました。今年度の発表会は、昨年度同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、会場での発表とWebによる発表を併用するとともに、たくさんの方々に発表会をご覧いただけるよう、YouTubeによるライブ配信も併せて行いました。

発表会には、近畿中国森林管理局の職員に加え、大学や高校の生徒をはじめとする教育機関、自治体、研究機関など10機関・団体が参加し、多様かつ新鮮な発表の場となりました。

本研究発表会は昭和43年から開催し、これまで発表された課題は累積で1千を超え、今回の発表課題についても、林業分野へのICT活用や森林被害対策、災害復旧など地域の課題に密着した幅広い研究・取組について、全23課題が発表されました。

また、特別講演では、「水流出と森林」、「エリートツリーと普及に向けた取組」や「スマート林業研究開発」といった森林・林業基本計画に掲げる「新しい林業」を展開するために必要となる取組等について発表いただきました。

試験研究機関や民間団体等から構成される8人の審査委員による審査の結果、近畿中国森林管理局長賞(3点)には岡山県農林水産総合研究センター森林研究所、和歌山森林管理署及び近畿中国森林管理局治山課と兵庫森林管理署の共同研究が受賞しました。このほか7つの課題がそれぞれ各賞を受賞しました。

今回発表いただいた内容については、森林・林業交流研究発表集録として取りまとめるとともに、林業関係者を含め広く一般の方々にも知っていただけるよう配信映像とあわせて局ホームページに掲載します。

発表内容やプログラムは下記アドレスをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



発表の様子



YouTube 配信の様子

□研究発表いただいた各機関・団体

- ・教育機関・・・京都大学フィールド科学教育研究センター、京都府立北桑田高等学校、京都府立宮津・宮津天橋高等学校、鳥取県立智頭農林高等学校、京都府立嵯峨野高等学校

- ・ 県（研究所等含む）・・・奈良県、岡山県
- ・ 企業・・・（株）組合立森林研究所、木構造建築研究所 田原
- ・ 森林整備センター・・・近畿北陸整備局和歌山水源林整備事務所

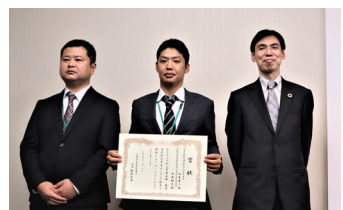
□特別講演いただいた各機関・団体

- ・ 森林総合研究所関西支所 チーム長（森林水循環担当） 細田育弘様 「古生層山地小流域一竜ノ口山南谷一の水流出と森林」
- ・ 森林総合研究所林木育種センター関西育種場 育種課長 栗田学様 「エリートツリー・特定母樹の開発と普及に向けた取組」
- ・ 石川県農林総合研究センター林業試験場 副場長 矢田豊様 「スマート林業研究開発成果の現場実装に向けて」

【令和3年度森林・林業交流研究発表会表彰一覧】

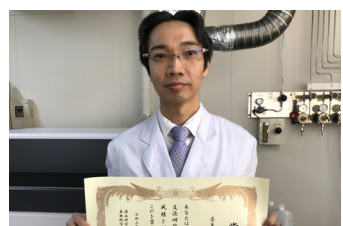
◎近畿中国森林管理局長賞

- ・ 林内に設置された進入防止柵の管理技術の検討
岡山県農林水産総合センター森林研究所 三枝 道生
- ・ ノウサギの森林被害防止のための誘引及び捕獲試験について
和歌山森林管理署 安田真菜 日吉沙絵子
- ・ 治山事業における ICT 活用の取組について～遠隔臨場の実施～
兵庫森林管理署神戸治山事業所 山本康二
近畿中国森林管理局治山課 山本雅志



◎（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所長賞

- ・ 国産キハダの栽培促進と優良な県産製品の拡大に向けた奈良県研究分野統合本部の挑戦～短期栽培のキハダは生薬として利用できるか～
奈良県薬事研究センター 西原正和



◎（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場長賞

- ・ 鍛冶屋又国有林におけるヒノキ低コスト造林試験～10年生時の広葉樹の除伐が植栽木の成長に及ぼす効果～
三重森林管理署 早瀬互 三重県林業研究所 島田博匡



◎（一社）日本森林技術協会理事長賞

- ・ 作業道の路面補強に関する一考察～頻発する局地的豪雨に備えて～
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター近畿北陸整備局和歌山水源林整備事務所 長柄豊 久保田拓也



◎（一財）日本森林林業振興会会長賞

- ・FRD[※]を活用した森林作業道開設設計と既存方法による開設路線の検討・考察について

兵庫森林管理署 斎藤俊彦 後藤祐輔

※ FRD（Forest Road Designer）は路網設計支援のためのソフトウェアです。



◎森林・林業交流研究発表会 審査委員長賞

- ・緑をとりもどせ！～生態系の多様性保全と土砂崩壊の防止を目指してその4～

鳥取県立智頭農林高等学校 坂本雅治 木村梓馬

川下翼 三村匠



- ・林福連携による世代を超えたつながりで創る木工製品

京都府立北桑田高等学校 小久保瑠惟 吉川凱揚 岩本凧都

川寄優心 和田直弥



- ・森を知り、森から地域を活性化する取組～人と地域をつなぐ林道～

京都府立宮津高等学校 平和将 大江涼亜

京都府立宮津天橋高等学校 石本貴志 初岡皆星



また、11月18日（木）、林野庁において、令和3年度国有林野事業業務研究発表会が開催されました。全国の7つの森林管理局から選出された課題の中から各部門別に発表・審査が行われ、当局からは3つの課題が表彰されました。当局においても、引き続き試験研究に取り組み、森林・林業に係る技術・優良取組事例等の成果を広く発信し普及に努めていきます。

◎林野庁長官賞【最優秀賞】：森林ふれあい・地域連携部門

- ・360度カメラを活用した森林ふれあい体験の取組

技術普及課 近藤弘基 八頭町産業観光課（元技術普及課）井上創太

◎林野庁長官賞【優秀賞】：森林技術部門

- ・スギ・ヒノキコンテナ苗の植栽後の活着率、初期成長と雪害抵抗性

島根森林管理署 高田隼輔

島根県中山間地域研究センター 陶山大志 共同研究

◎林業機械化協会会長賞：森林技術部門

- ・ICTを活用した丸太材積の測定方法について

屋久島森林管理署（元鳥取森林管理署）都賢太郎

近畿中国森林管理局管内国有林野等 所在市町村長連絡協議会

【企画調整課】

11月10日（水）局大会議室において、国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催しました。

この協議会は、地元農山村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的に設置しており、管内14協議会の代表者が一同に参加して情報提供や意見交換などを行いました。

林野庁から国有林野部長、経営企画課長、計画課調査官が出席し、新たな森林・林業基本計画、令和4年度予算概算要求の概要、脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材利用の促進に関する法律、森林経営管理制度の取組状況等の情報提供を行いました。

その後、近畿中国森林管理局から令和3年度の重点取組事項や市町村ニーズを踏まえた国有林の支援について（国有林における市町村支援メニュー）等の情報提供を行いました。



協議会の様子

また、今年度は森林整備センター近畿北陸整備局にもご参加いただき、森林整備センターの概要や水源林造成事業の取組について情報提供を受けました。

意見交換では、航空レーザー測量データの分析・解析等の高度な専門的能力をもった人材の育成支援の充実強化や公共建築物における木材利用や木質化の促進に向けた技術的支援、木材の熱利用・バイオマスにかかる取組の推進の要望、皆伐後の再造林に向けた対策についての質問があり、各地域の取組の後押しとなるよう林野庁が進める支援策の説明や優良事例の紹介等を行いました。

協議会の活動をとおり、今後もより一層地域に貢献できるように取組を進めてまいります。

令和3年度森林管理署長等会議を行いました。

【総務課】

近畿中国森林管理局では、森林管理署長等会議を11月8日（月）から11月9日（火）の2日間の日程で局会議室において開催しました。今回の会議は、新型コロナ対策のため出席者は課長以上の局幹部、署長等とし、出席者以外の課長補佐、企画官等はWEBでの視聴としました。



訓示をする柏原局長

全体会議では、局長から綱紀保持、適切かつ着実な事業の実行、林産物の販売の積極的な情報収集、低コスト造林など新しい林業の実践的かつ実証的な取組と普及、個別事案の初動と丁寧な対応、風通しの良い職場づくり、などについて訓示がありました。

続いて行われた次長、各部長による説示のあと、署長等は4つのグループに分かれてグループ毎に次のテーマについて順次、局長、幹部との意見交換を行いました。テーマとされた議題

1. 署等として特に力を入れた創意工夫をこらす重点取組。
2. 市町村支援の具体的取組。
3. 若手職員の人材育成。

2日目は各部、各課から署長等への指示伝達事項があり、各署等の意思の疎通が図られました。

今後も各署等との連絡を密にし、業務運営がより円滑に進むように進めてまいります。

「北三瓶小学校」との森林・木工教室を実施しました。

【島根森林管理署】

島根森林管理署では10月20日(水)、国立三瓶青少年の家(島根県大田市)において、大田市立北三瓶小学校の全校児童12名を対象に職員が講師となり森林・木工教室を行いました。

森林教室では、紙芝居を用いて森林の働きや木材の利用について説明



国有林の動画を見る様子

しました。児童の皆さんは投げかけた質問に対して積極的に手を挙げ、みんなで考えながら森林についての学びを深めることができました。

また、大田市の国有林を担当する森林官が国有林内を撮影した動画を使って、間伐前後の林内の違いについて説明しました。児童の皆さんは、林内の明るさや下層植生の違いに驚いていました。

木工教室では、スギの間伐材を使ったネームプレートを作りました。材料に使うスギやクロモジの枝の良い香りを感じながら、いろいろな木の実を用いて飾り付けを行いました。



ネームプレート作成中

今回の森林・木工教室を通して、森林の大切さや木に触れあうことの楽しさを感じてもらえたと思います。



完成した作品を持って集合写真

森林環境教育イベントへの協力をしました。

【奈良森林管理事務所】

遊々の森^{*}の協定を結んでいる地元自治会を通じて、奈良県立西の京高等学校より、国有林を活用したイベント開催への協力依頼があり、11月23日(火)、奈良市赤膚町に所在する大亀谷^{おおかめだに}国有林において、森林環境教育イベントを開催しました。

西の京高等学校では、地域創生コースにおいて森林を活用した取組をしており、以前、近畿中国森林管理局が主催する森林・林業交流研究発表会において、その成果を発表するなど、森林に関する熱心な取組をしてこられました。当校は、今年度をもって他校との合併が決まっており、その集大成として本イベントを企画した生徒の方々の思いに深く感銘を受け、イベントへの協賛をはじめ、近畿中国森林管理局職員が作成した紙芝居の貸出し、職員派遣などの協力を行いました。



紙芝居の実演



スタンプラリー

当日は、「大亀谷フェスタ」と題し、落ち葉や木の実を使ったネイチャークラフト体験、スタンプラリー、高校生による貸出しした紙芝居の実演が行われました。

イベントには、地元六条小学校(1年生～6年生)児童53名と保護者28名が、4班に分かれ参加し、コロナ渦の中で何かと制限される中、森林の中で体験する各種イベントに対して、大変満足した様子でした。

今後も奈良森林管理事務所では、国有林における森林環境教育等への活用要望に対して、積極的に協力してまいります。

※遊々の森：森林ボランティアに熱心な団体等と森林管理局が協定を締結し、国有林のフィールドを活用し、ボランティアによる森林整備や森林環境教育等が実施できる国民参加型の森林づくり協定のこと。

鳥取県林業試験場と生分解性コンテナで養成した少花粉スギ苗について実証試験に着手し、花粉症対策苗の普及促進へ向けて取り組みます。

【鳥取森林管理署】

スギ花粉症は、国民の4割が罹患していると言われ、春先になるとマスコミにも大きく取り上げられる「国民病」となっています。林野庁においても花粉発生源対策として、「花粉を飛散させるスギ人工林等の伐採・利用」、「花粉症対策に資する苗木による植替えや広葉樹の導入」、「スギ花粉の発生を抑える技術の実用化」を『3本の斧』と位置づけ対策を推進しているところです。鳥取県においても少花粉のスギ品種が開発され、普及に力を入れています。が、まだ、生産は少量にとどまっているのが現状となっています。

また、県内の少花粉品種の生産は、新しい技術である「生分解性コンテナで養成した少花粉スギ苗（以下「生分解性少花粉苗」という。）」が主流となっていますが、生分解性コンテナの分解、苗木の成長など不確実な部分があることから事業段階での積極的な導入が図られていない状況となっています。

そこで、今年度から当署と鳥取県林業試験場（以下「試験場」という。）が連携・共同し、事業レベルでの植栽において生分解性少花粉苗の生長を確認する実証試験に着手し、将来的な花粉症対策苗の普及促進へ向けて取り組むこととしています。

○共同試験地（植栽箇所）概要

所在地 にしがも 西鴨国有林 569 い林小班（倉吉市関金町）

面積 1.15ha（プロット:3カ所）

植栽本数 2,300本（2,000本/ha）



植栽する苗木については、鳥取県山林樹苗協同組合（以下「樹苗組合」という。）を通じ、県内で育苗された2年生の生分解性少花粉苗を植栽することとし、植栽に当たっては、県内の関係機関・団体の方にご協力をいただき、10月28日（木）から11月12日（金）の期間に5回、共同で植栽を行いました。

○協力いただいた関係機関の方々

試験場の職員、樹苗組合（県内の5苗圃）の方々、鳥取県の若手職員（県庁、県内の支所）、にちなん中国山地林業アカデミーの学生、環境省大山隠岐国立公園管理事務所の職員

この度、生分解性少花粉苗を植栽するにあたり、多くの関係機関・団体の方にご協力をいただき誠にありがとうございました。今後、生分解性少花粉苗の成長に伴い様々なデータを収集・検証して参ります。



プロット内での植栽の様子



植栽された小花粉苗



種苗組合参加者で記念撮影

近い将来、国有林、民有林を含めた主伐・再造林箇所で、少花粉苗が植栽され、花粉の少ない森林へ転換できることを願っています。

労働基準監督署との合同安全パトロールの実施について

【奈良森林管理事務所】

日頃から、国有林野事業に御協力いただいています請負事業者等の労働安全確保の観点から、^{おおよど}大淀労働基準監督署に御協力いただき、11月25日(木)午前中、合同の安全パトロールを実施しました。当日は、大淀労働基準監督署長、地方労働衛生専門官から直接事業者に対し指導いただき、当時の作業から、人力による石積作業における手詰め災害の防止、重機と人力の接近作業による災害防止の観点から、作業計画の作成による全作業員への当日の作業プランの周知徹底について御指導いただきました。



労働基準監督署による現場指導

午後からは、大淀労働基準監督署に場所を移し、午前中に実施した安全パトロールの総括、奈良県における事業毎の災害事例の紹介など、大淀労働基準監督署の担当官より御教示いただきました。

災害事例からは、令和2年度に比べ、特に林業関係の災害は減少傾向にあるものの、滑った、転んだなどの足下の不注意による災害、つる絡みやかかり木による伐倒作業の災害が多くを占めているとの情報いただきました。また、高齢労働者の災害が多いことから、高齢者に配慮した労働安全の取組として「エイジフレンドリー」という取組を展開されているとの話もいただきました。なお、当日は、所内、治山事業所の若手職員も同行しており、OJTによる職員の安全意識の高揚にも寄与することができました。

今後も、請負事業者等の労働安全の確保を図るため、労働基準監督署と連携した取組を展開してまいります

森林のギャラリー（局庁舎1階）



森のギャラリー「ヒノキのボールプール」をご利用いただいた親子連れのお客様です。

また、遊びに来てくださいね！

【技術普及課】

○森林のギャラリー（局庁舎1階）現在の展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

来年1月6日(木)から「奈良県吉野町」「福井県池田町」「一般社団法人全国燃料協会」の展示を行う予定です。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【箕面森林ふれあい推進センター】

○こだま通信 118号を発行しています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/kodamatushin.html



【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙(53通目)を発行しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/oosugitegami.html>



花草木

【ケヤキ】

ケヤキは、北海道西南部、本州、四国及び九州の山地や丘陵に自生するニレ科の落葉高木です。新緑、紅葉のみならず箒状の樹形があらわになる冬季の佇まいも美しく、街路樹や屋敷林として使われることが多い日本を代表する巨木の一つですが、朝鮮半島や中国にも自生しています。

ケヤキの材は乾燥させても寸法が狂いやすいが、長い時間寝かせれば落ち着きます。耐久性や耐湿性が高いため、たんす箒筥（仙台タンスなど）、和太鼓などの道具や楽器に使われるほか、京都の清水寺など名だたる神社仏閣の柱にも使われています。材に「玉杢たまもく」や「牡丹杢ぼたんもく」と呼ばれる模様が入ったケヤキは特に価値が高く、お盆やお椀といった伝統工芸品に使われます。

ケヤキの樹形は空へ向かって扇型に広がり、下枝（横枝）が少ないため、人が集う場所に木陰を作る木として適しています。葉は長さ3～7センチほどの細長い楕円形で先端が尖り、枝から互い違いに生じます。縁にはギザギザが目立ち、手で触れると表面はカサカサしています。秋にはオレンジから黄色に淡く色づいて美しいです。



大阪市内の公園で撮影したケヤキの木と紅葉した葉

我が所のスタッフ

岡山森林管理署

赤瀬 誠太郎（あかせ せいたろう）（令和2年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループに所属し、販売と車両管理の業務を担当しています。販売業務では、各種森林整備等によって生産された素材（丸太）を、木材市場と山元でのシステム販売によって需要者に販売する業務を行っています。岡山県内各地の国有林から生産された素材を、川下の製材工場等へ循環させ、地域の木材産業の発展に寄与する役目を担っていることにやりがいと意義を感じています。

また、自ら丸太の検知に出かけることもあり、素材の測り方や見分け方も少しずつ身につけており、有利な採材について理解できるように日々業務に取り組んでいます。



木材市場にて検知業務中

【職場の雰囲気は？】

明るい雰囲気、分からないことはすぐに聞きやすい環境です。また、定時退庁や休暇所得の呼びかけ、フレックス制度の活用にも積極的で、プライベートも充実できます。

【林野庁の魅力は？】

林野庁では、日本の森林の3割を占める国有林を管理・経営するに当たり、全国に配属されている職員が各地で様々な業務を連携・協力して行っています。このスケールの大きさと、森林に関する幅広い業務に従事できることに魅力を感じています。また、森林内での現場業務では、体力が向上し気分もリフレッシュできます。

森林事務所紹介

わかさ 若桜森林事務所 (鳥取森林管理署)

首席森林官 鳥谷 啓輔 (とりたに けいすけ)

若桜森林事務所は、鳥取県東部に位置し、千代川流域の鳥取市の一部（旧国府町）及び若桜町・八頭町を管轄区域とし、国有林野 12 箇所 6,379ha と公有林野等官行造林地 4 箇所 101ha を管理経営しています。

管理する国有林は主に、鳥取県と兵庫県との県境付近に位置しており標高も高く積雪は例年 2m 近くあり冬期は非常に厳しい環境です。しかし、その雪が豊かな水量の源となっていて、鳥取県東部に流れる千代川の水源になっています。

当管内の氷ノ山^{ひょうのせん}国有林・扇ノ山^{おうぎのせん}国有林は国民に開かれた森として管理しています。



スキー場のある氷ノ山国有林

氷ノ山^{ひょうのせん}国有林は「氷ノ山^{ひょうのせん}後山^{うしろ}那岐山^{なぎさん}国定公園」に指定されており、鳥取県では 2 番目に高く、兵庫県で 1 番高い、氷ノ山（別名：須賀ノ山）があり、夏は登山、冬はスキーと 1 年を通して多くの国民に利用されています。

扇ノ山^{おうぎのせん}国有林は、ブナなど自然豊かな自然林が多く、レクリエーションの森林として「扇ノ山^{おうぎのせん}森林スポーツ林」に指定しています。区域には、八頭町が管理する「八東ふるさとの森」があり、ブナ林内でグランピング、キャンプやバードウォッチングなどが楽しめます。

なお、林道等を利用した「トレイルラン（山岳マラソン）」が行われており人気を博していましたが、現在は新型コロナウイルスのため中止されています。



扇ノ山^{おうぎのせん}国有林にある「八東ふるさとの森」



沢川^{さわかわ}国有林にある森林鉄道跡

木材生産の主要地域は沢川^{さわかわ}国有林と小舟山^{おぶねやま}国有林で主に優良なスギを生産しています。沢川^{さわかわ}国有林は昭和 20 年代から木材生産の主要地域で、森林鉄道による木材搬出が行われ、当時の痕跡が現在も残っています。

また、小舟山^{おぶねやま}国有林においては、民有林と国有林の連携による施業団地を設定し「小舟山^{おぶねやま}地域森林整備推進協定」に基づき、林業専用道の開設など地域と一体となった事業を実施しています。

これからも、鳥取県東部の水源林を守り木材供給や親しまれる森林づくりのため、日々、国有林管理に励んでいきます。



小舟山^{おぶねやま}国有林での共同利用を図る林業専用道

シリーズ『国有林 最前線！』

公益重視の管理経営、民有林との連携、技術者の育成に向けて 和歌山森林管理署

和歌山森林管理署が所在する和歌山県は、国内最大の半島である紀伊半島の南西側に位置し、黒潮の温暖な潮流の影響と豊富な降水量により、古くから森林資源に恵まれ、「木国（きのくに）」とも呼ばれてきた地域です。管内の国有林においても、造林木は概ね生育が良好であり、その資源内容も充実していることから、和歌山森林管理署では、主伐～再造林に取り組みつつ、森林整備を積極的にすすめています。

これらの取組にあたっては、低コストの手法を積極的に取り入れ、更に民有林への普及を行うことが重要です。

和歌山森林管理署では、和歌山県等民有林と連携し、下記に示すように国有林をフィールドとして、冬下刈技術や獣害防止対策等の検証・実証、普及啓発により、地域林業の森林整備が円滑に行われるよう取り組んでいます。

○冬下刈の実施

みやしろがわ

宮城川国有林における冬下刈後の状況、下刈後の生育状況
(写真左：R3年7月、写真右：実施後17カ月経過)

※本年12月に本局及び森林総合研究所関西支所と連携して現地検討会を実施します。



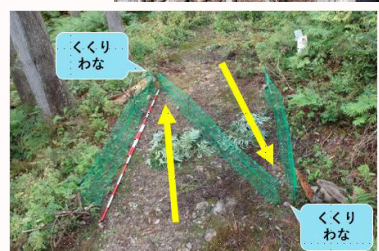
○産官学の協働による和歌山県立農林大学校林業研修部への支援

宮城川国有林をフィールドとしたシカ防護柵実習（写真左）、ドローンによる苗木運搬実習（写真右）を実施しています。



○獣害対策

近年被害が散見されるノウサギの食害を防ぐため、「ノウサギN型誘引捕獲ワナ」を考案し改良に取り組んでいます。



「くくりわな」拡大写真

一方、平成23年に発生した台風12号により、紀伊半島南部を中心に激甚な山地災害が発生しました。災害規模が大きい田辺市内の4区域について、地元自治体と連携を密にして民有林直轄治山事業を継続して実施しています。このうち、上秋津区域においては、斜面崩落の発生状況等について、地元の関心が高まるなか、自治会への説明や、和歌山県、田辺市と連携した崩落状況の監視を強化することなどに努めています。

○上秋津区域における民有林直轄治山事業の実施

現地は地下水の動きにより、地すべり性の土塊が移動。近年、斜面の崩落が顕著となっている（写真上）斜面から地下水を排出するための井戸の整備（集水井工）するほか、落石が直下の県道へ落下するのを防ぐ防護柵を設置し、落石を捕捉しています。（写真下）

